

モーリシャス沖で座礁した「WAKASHIO」をめぐる状況

- 現地時間7月25日19時25分頃、(株)商船三井が運航するばら積み貨物船「WAKASHIO(わかしお)」が、モーリシャス南東沖のサンゴ礁帯に座礁。
- 8月6日、「WAKASHIO」から海域への燃料油等の漏出(約1,000トン)が発生。
- 8月9日、モーリシャス政府からの要請を踏まえ、6名(うち海上保安庁4名)からなる国際緊急援助隊・専門家チームの派遣を決定。8月11日、現地到着。
- 8月12日までに、燃料油タンク残留油のほぼ全量(推定約3,000トン)を回収。
- 8月15日、船体が前後2つに分断。
- 8月18日、地元警察が「WAKASHIO」の船長及び一等航海士を逮捕。
- 8月20日、国際緊急援助隊の第2次隊(環境省等7名)が現地到着。
- 8月23日、現場海域の油の早期除去の支援を終えた第1次隊が帰国。
- 8月24日、分断した前部船体は当局指示の下、指定海域において海没処分。
- 9月4日、国際緊急援助隊の第3次隊(環境省等6名)が現地到着。
- 9月7日、茂木外務大臣からモーリシャス・ジャグナット首相に対し、日本政府の中長期の支援策を提示。

【現在の状況】

- 当初漏出した燃料油等(約1,000トン)については、海上浮流油はおおよそ回収済。海岸漂着油は、油濁清掃業者、関係当局及び地元住民が回収作業中。
- 国際緊急援助隊は、生態系への影響把握に関する支援を実施中。
- (株)商船三井は、油除去作業に必要な物資(油吸着マット170箱、防護服1,140着、マスク10,000個等)を順次現地に提供。今後も継続予定。
- (株)商船三井は、モーリシャスの環境回復・地域貢献に向けた今後の支援策(マングローブ保護、サンゴ礁回復、冷凍コンテナ寄贈等)を公表。
- (株)商船三井13名が現地にて活動中。

1

モーリシャス南東沖で座礁した「WAKASHIO」について

船名	: WAKASHIO
船舶所有者	: OKIYO MARITIME CORP
(実質船主)	: 長鋪(ながしき)汽船株式会社(岡山県笠岡市所在)
運航会社	: 株式会社商船三井
船籍	: パナマ
船種	: ばら積み貨物運搬船
長さ	: 299.95m
総トン数	: 101,932トン
乗員	: 20名(インド3名(船長、機関長、司厨員)、スリランカ1名、フィリピン16名)
積荷	: 空荷
搭載燃料油等	: 4,191トン
想定油流出量	: 約1,000トン



政府当局が指示した水深約3,000m地点(領海内)に海没処分される前部船体



後部船体の座礁状況

(出典: Mobilisation Nationale Wakashio)

2